



昼休みに小学校の校庭で遊ぶ子どもたち

セブ通信

フィリピン・セブ島北部地域保健
衛生事業の現場から

vol. 7

2018. 5. 31 田村 由美

子どもたちを対象とした活動

こんにちは。みなさんいかがお過ごしでしょうか。私は、派遣期間が延長になり、一時帰国をはさんでまたフィリピンに戻ってきました。前号から時間があいてしまいましたが、引き続きこちらの様子をお伝えしていきたいと思います。

あつ〜い夏が来た！

フィリピンは年間を通して暑い熱帯性気候です。日本のような大きな気温差こそないものの、4月から6月にかけては1年のうち最も気温が高い時期です。30℃を超える毎日が続き、ジリジリとした日差しが照りつけます。現地の人たちは「夏が来た」と口々に言います。4月以降、雨も数えるほどしか降っていません。

今が夏真っ盛りのフィリピン。学校は4月5月の2か月間が夏休みです。解放感に満たされ元気いっぱい遊ぶ子どもたちを横目に、フィリピン赤十字社（以下、フィリピン赤）スタッフは郡の教育省（日本の文部科学省に相当）担当者と会議をしたり、研修を受けたり、書類の手続きをしたりと、夏休み明けから小学校で始める衛生教育活動の準備を着々と進めています。新学期が始まったら、事業対象の17の小学校に「衛生給水委員会」を立ち上げて、いよいよ児童を対象とした活動が始まります。

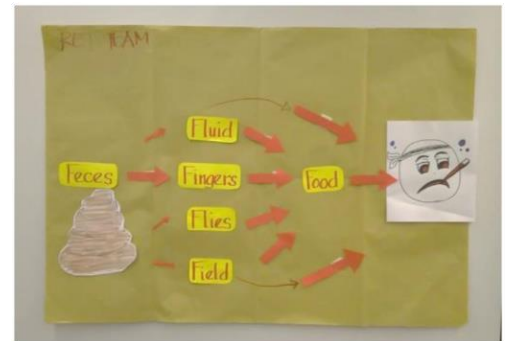
「衛生給水委員会」は、日本の小中学校の委員会活動のような活動です。委員になった児童がリーダーとなって、手洗いやごみの分別など衛生に関する知識や実践を学びます。遊びやゲームの要素を取り入れた活動を通して、子どもたちは楽しみながら主体的に学んでいくというわけです。

旅行者でなくてもこわい下痢

子どもたちが学ぶ内容の1つに「Fダイアグラム」というがあります。これは、Feces（排泄物）、Fluid（液体＝水）、Fingers（手指）、Flies（ハエ）、Field / Floor（野原/床）、Food（食べ物）というFから始まるキーワードを用いて、排泄物に含まれる「ばい菌」が私たちの口腔に入るまでのさまざまな経路を示しています。（右のコラム参照）。伝播経路を理解することで、その経路を封じするには手洗いやトイレの適切な使用が必要であると気づき、手洗いやトイレの正しい方法の実践を身に着けていくという流れです。

どの事業地でも、「健康問題は何か？」と尋ねると、デング熱や高血圧と並んで、必ずと言っていいほど下痢が挙げられます。旅行者だけでなく、住民にとっても下痢はこわい存在です。小さいうちに正しい知識と習慣を身につけて、元気に毎日を過ごしてほしいものです。

私自身の話になりますが、小学校の頃のある日、煙草について特別授業がありました。フィリピン赤の活動のように子ども同士で学ぶというわけではなく、確か外部から講師の方が来て話をしてくれたように記憶しています。真っ黒な肺の写真を見たり、煙草が体にもたらす負の影響を聞いたりして、「煙草ってこんなに体に悪いんだ！」と強く心に残りました。その日、仕事から帰宅した父に授業で習った内容を話し煙草をやめるようにお願いすると、まもなく父は禁煙を始めました。ここフィリピンでも、子どもたちだけではなく彼らを取り巻く大人にも、活動の成果が波及していくことを期待したいと思います。



Fダイアグラム

「F」の中でも私がとりわけ気になるのは Flies（ハエ）。人間がどれだけ手洗いをしようがトイレを適切に使おうが、ハエたちは動物や人間の糞便にとまったその足で食べ物や食器・テーブルにとまりにきます。大衆食堂やレストランで食事をしている最中にも、隙あらば食事やストローにとまりにくるハエたちに、食事中も気の休まる時がありません・・・。



小学校での活動を始める前に

事業スタッフは活動の目的や方法、具体的な内容について、4日間の研修を受けます。グループワークでは、参加者がリーダー役や子どもたちになりきって、本番さながらのシミュレーションが行われました。